

その『英語口』初級編①②に対しては、読者から発売以来、次のような大好評が出版社に寄せられている。

私は本書の「最も効果的な暗記の仕方」どおり各文を暗記しました。このおかげで、日常会話が話せるだけでなく、夢まで英語で見られるようになったのです。私は嬉しくてたまりません。興奮しています。

本書を学習する前にいろいろな方法で勉強しましたが、どれも効果が出なかったのに、本書ではこんなに効果がすぐ出ているんです。そこでお願いがあります。中級編・上級編を出版していただけないでしょうか。書店へ行き中級編を探したら、出版されていないと店員さんに言われました。今後、もっと上のレベルをマスターして英語を自由自在に使いこなせるようにして、仕事に生かしたいんです。

このような嬉しい声が殺到したので、単に日常会話ができるだけでなくビジネスでも英会話が使えるように、この中級編を出版することにした次第である。今後は、TOEIC、TOEFLで満点が取れるように上級編も出版する予定である。

最後に本書の出版に際し、株式会社アスキーの工藤裕一編集長にはここで言い尽くせないほどいろいろな面でご協力をいただき、筆者の執筆意欲をかりたててもらった。また、日本アイアール株式会社の桑田健氏は、編集者として本当の意味でプロであり、編集者としてあるべき姿で筆者と一緒に仕事をしてくれた。本書がベストセラーになるとすれば、筆者に言葉では言い尽くせないご配慮をいただいた両氏のお陰であると心から思っている。ここで衷心より感謝申し上げたい。

2006年2月1日

市橋敬三

最も効果的な暗記の仕方

①各英文を最低80回は音読すること。100～130回できるとさらに望ましい。算数の「九九」も最低100回読むようにと小学校の先生が言っている。英語は外国語である。この努力をしなければ大きな進歩もないし、自信もつかないことを断言する。英会話は英文法を忘れることから始まるという他書の宣伝文句に踊らされないよう注意されたい。

②大声で音読することを勧める。黙読はマイナスではないが効果はあまりない。それは次の理由からである。黙読は目と頭しか使わない。音読は目、頭、声、口、耳の5つを使うことになるので、80回読むと一生忘れないことにつながる。

③1日のノルマを果たした後、日本語の部分を見たときたん英語が出てくるかどうかチェックすること。この際、80回読み終えた文のみチェックすること。30回くらい読み終えてもチェックしてはいけない。筆者がこれまでに教えた経験では、チェックしたときすぐに口をついて出てこないと焦りだし、自信を失い、暗記する意欲がなくなるからである。なお、本書には青のチェックシートがついているので、暗記やチェックの際の手助けとして活用してほしい。

④CDの利用を強く勧める。英会話は2つの要素で成立する。話すことと聞くことである。本書の例文を暗記することにより、話す能力は十分つく。聞く力をつけるためには、本書の例文を全部収録したCDを利用することを強く勧める。それは次の利点があるからである。

(A) リスニングの練習に大いに効果がある。本書では会話で話されるそのままの姿で1つ1つの例文を書いてある。したがって、次のようにbe動詞などは他書に見られないくらい省略形を使っている。

〈例〉Tokyo is ... → Tokyo's ...